



株主の皆さまへ

第60期 報告書

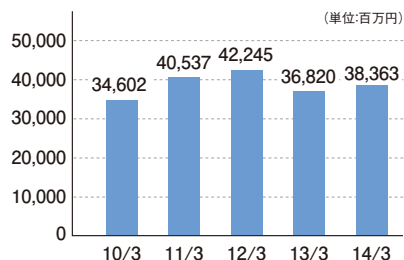
2013年4月1日 ▶▶▶ 2014年3月31日

人を活かし、
人と共に成長する企業、
それがUEX

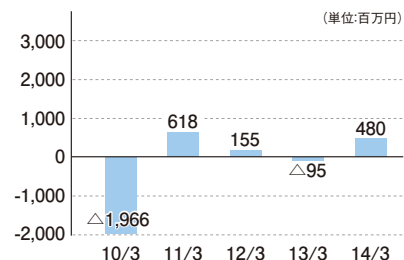
証券コード：9888

■ 連結財務ハイライト

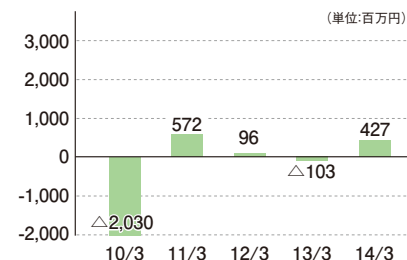
売上高



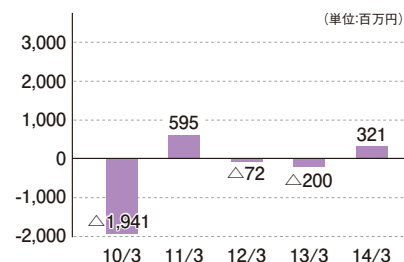
営業利益



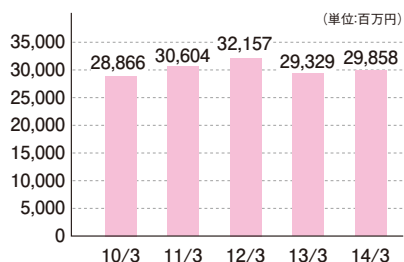
経常利益



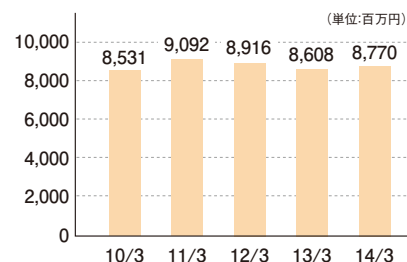
当期純利益



総資産



純資産



CONTENTS

連結財務ハイライト	P1
ごあいさつ	P2
事業の概況	P3
連結財務諸表の要旨	P5
トピックス	P6
会社概要／株式の状況	裏表紙

■ ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第60期の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

ステンレス鋼業界におきましては、国内市場では昨年春以降需要が徐々に回復し、鋼板受注実績は、産業用機器用、建設用、自動車用を中心に前年を上回りました。一方、輸出はアジア向けを含め前年を下回りました。この結果、2013年（暦年）のステンレス鋼生産量（熱間圧延鋼材ベース）は、286万トンと前年実績の282万トンから微増となりました。価格面につきましては、メーカー各社の値上げ姿勢により後半は強含みで推移し、原料価格の上昇もあり国内市場に先高感が台頭してきました。

当社企業集団の連結業績は、中核事業であるステンレス鋼その他金属材料の販売事業が需給の改善を背景に回復し、第2の柱であるステンレス鋼その他金属加工製品の製造・販売事業も好調を持続しました。第3の柱である機械装置の製造・販売及びエンジニアリング事業は赤字となりましたが、連結業績は黒字転換いたしました。

なお、2013年度の期末配当金につきましては、1株につき6円50銭を第60回定時株主総会に上程させていただき、ご承認をいただきました。

今後の事業環境は、中国を中心とするアジアや新興国での需要構造の変化などを背景に一層グローバル化が進み多様化・複雑化してくると予想されます。当社企業集団は、今後起こり得る様々な経営環境の変化を想定し、最も厳しい条件でも確実な利益を確保できるコスト構造を作るため、昨年3月に2016年3月期までの3か年で、売上総利益率13%以上を維持する一方、売上高販管費率を11%以下に低減することを当社単体の数値目標に掲げました。2014年度は3か年目標の2年目であり、目標達成の正念場と捉え、販売面の強化とコスト管理を徹底し強固な収益基盤を築き上げる所存でございます。

株主の皆さまにおかれましては、当社企業集団への一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2014年6月

代表取締役社長

岸本 則之



■ 事業の概況

当期におけるわが国経済は、政府及び日銀による経済政策や金融政策による効果で円安・株高が進み、大企業を中心に企業業績に改善が見られ、景況感は緩やかな回復傾向となりました。また、今後の景気回復への期待感の高まりなどを背景に個人消費にも改善の兆しが見られました。一方、海外経済は新興国の成長鈍化などもあり、不透明な状況で推移しました。

このような状況のなか、当社企業集団の連結業績は、主力事業であるステンレス鋼その他金属材料の販売事業において、販売数量の確保に全力を尽くした結果、売上高は前期に比べ4.2%増加の38,363百万円となりました。利益面では、メーカー値上げに対応した販売価格の改定や原価低減努力による売上総利益率の改善に加え、販売費及び一般管理費の削減に努めた結果、営業利益480百万円（前期は95百万円の損失）、経常利益427百万円（前期は103百万円の損失）、当期純利益321百万円（前期は200百万円の損失）を計上しました。

中長期的な会社の経営戦略

当社は、ステンレス・チタン商社として業界トップクラスの地位を維持していくため、今後起こり得る経営環境の変化を想定し、最も厳しい条件にも対応可能なコスト構造を構築していきます。そのうえで、事業拡大のために経営資源を投入できる企業体質へ改善を図り、確固たる収益基盤を構築することを目標とします。これを達成するため、新成長分野への取り組み、海外展開の強化などにより新たなビジネスチャンスをとらえるとともに、当社コアビジネスの収益改善を推進してまいります。内部においては、当

事者意識・主体性の発揮に加え協働・育成の文化を形成するための業務改善活動を継続します。

2015年3月期の見通し

2015年3月期の経済環境につきましては、金融緩和政策の継続や政府による経済対策の推進などにより、緩やかな景気回復の継続が予想されますが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動や海外景気の下振れリスクなどの不安定要素もあり、予断を許さない事業環境が続くものと思われれます。

このような状況の中、次期連結業績は、売上高40,600百万円、営業利益700百万円、経常利益670百万円、当期純利益550百万円を予想しております。

利益配分につきまして

当社は、競争力を維持し成長を促進させるために必要な資金や有利子負債削減など財務体質の改善を図るための資金を内部留保として確保していくことを前提に、株主に対し当該期の連結業績に応じた利益配分を行うことを基本方針といたします。連結業績に応じた利益配分の指標としては、連結配当性向15～20%を目安といたしますが、当期の配当につきましては、株主の皆さまの日頃のご支援に報いるべく、期末に1株につき6円50銭とさせていただきます。

また、次期の配当につきましては中間配当2円、期末配当6円の年間配当8円（連結配当性向16.0%）とさせていただきます。

セグメント情報

ステンレス鋼その他金属材料の販売事業

ステンレス鋼の販売において、販売数量が前期に比べ4.3%増加するとともに販売価格が0.6%上昇したことなどにより、売上高は前期に比べ5.6%増加の36,243百万円となりました。営業利益は、販売環境の改善により売上総利益が増加し、392百万円（前期は309百万円の損失）となりました。

ステンレス鋼その他金属加工製品の製造・販売事業

国内の建築分野におけるステンレス加工品販売が好調に推移したことと、中国での造管事業において自動車部品向けが増加したことにより、売上高は前期に比べ19.5%増加の1,259百万円、営業利益は売上総利益の増加にコスト削減効果も加わり、前期に比べ21.2%増加の155百万円となりました。

機械装置の製造・販売及びエンジニアリング事業

第4四半期に売上計上を予定していた物件の納期が翌期にずれ込んだことと、企業集団から1社を除外したことにより、売上高は前期に比べ40.8%減少の861百万円となりました。営業利益は、売上総利益の減少額が販売費及び一般管理費の削減額を大きく上回り88百万円の損失（前期は57百万円の利益）となりました。

■ セグメント別会社一覧

(単位：百万円)

事業区分	会社名	資本金	出資比率 (%)	売上高		事業内容
				13/3実績	14/3実績	
ステンレス鋼 などの販売	UEX (当社)	1,512	—	34,540	36,283	ステンレス鋼などの在庫加工販売
	UEX管材	12.8	79.4	1,192	1,254	鋼管、鋼材、継手類の販売
	日進ステンレス	20	100	990	1,260	半導体装置用ステンレス鋼管の販売事業
	ナカタニ ^(※)	10	33.6	3,515	3,083	鋳造品・鍛造品・機械部品などの設計・加工
	ステンレス急送	10	100	365	370	貨物自動車運送業
加工製品の 製造・販売	大崎製作所	15.5	100	819	885	有圧換気扇ウェザーカバーのOEM生産
	上海UEX	1,520千US\$	100	17.0百万円	22.2百万円	鋼管加工製品の製造・販売
機械装置エンジニアリング	上野エンジニアリング	60	90	1,192	741	一般産業用機械装置の設計・製作

(※)は持分法適用会社

■ 連結財務諸表の要旨

連結貸借対照表

単位：千円

	第59期（前期） 2013年3月31日現在	第60期（当期） 2014年3月31日現在
【資産の部】		
流動資産	19,552,184	19,795,013
固定資産	9,776,713	10,063,451
有形固定資産	6,966,584	6,959,466
無形固定資産	363,021	436,855
投資その他の資産	2,447,108	2,667,130
資産合計	29,328,897	29,858,464
【負債の部】		
流動負債	18,131,655	17,635,907
固定負債	2,589,659	3,452,936
負債合計	20,721,314	21,088,844
【純資産の部】		
株主資本	6,911,840	7,211,097
資本金	1,512,150	1,512,150
資本剰余金	1,058,008	1,058,008
利益剰余金	4,586,101	4,885,358
自己株式	△ 244,419	△ 244,419
その他の包括利益累計額	1,670,176	1,530,747
少数株主持分	25,566	27,777
純資産合計	8,607,582	8,769,620
負債純資産合計	29,328,897	29,858,464

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

単位：千円

	第59期（前期） 2012年4月1日～ 2013年3月31日	第60期（当期） 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高	36,820,309	38,363,349
売上原価	31,902,715	32,882,349
売上総利益	4,917,595	5,481,000
販売費及び一般管理費	5,012,942	5,000,771
営業利益又は営業損失（△）	△ 95,347	480,228
営業外収益	133,784	82,890
営業外費用	141,658	135,825
経常利益又は経常損失（△）	△ 103,221	427,293
特別利益	891	3,774
特別損失	41,051	53,766
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失（△）	△ 143,381	377,301
法人税、住民税及び事業税	67,851	99,268
法人税等調整額	△ 12,071	△ 44,058
少数株主利益	1,029	795
当期純利益又は当期純損失（△）	△ 200,190	321,296
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失（△）	△ 199,161	322,091
その他の包括利益	4,075	120,664
包括利益（内訳）	△ 195,086	442,756
親会社株主に係る包括利益	△ 195,963	440,133
少数株主に係る包括利益	877	2,623

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：千円

	第59期（前期） 2012年4月1日～ 2013年3月31日	第60期（当期） 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	998,150	225,566
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 612,577	△ 509,586
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 292,950	63,832
現金及び現金同等物の期末残高	2,175,001	1,967,030

※記載金額は、千円未満を四捨五入表示しております。

新型レーザー切断機を新たに設置しました

2013年10月、当社の主力工場である伊勢原スチールサービスセンターに新型レーザー切断機を1台設置、稼働を開始しました。当社ではこれまでもレーザー切断機による切断加工は行っていましたが、この新型レーザー切断機は現状の受注サイズの多くを占めている製品を最も効率よく切断できるという利点があるため、作業の効率化が大いに図られています。既存のレーザー切断機に比べて約4割切断時間を短縮することができるため、近年高まっている高精度な切断加工品の需要に対して、今まで以上に

お客さまのご要望にきめ細やかに対応することが可能となりました。この機械の導入により、伊勢原スチールサービスセンターの切断加工能力が大幅に向上し、当日仕上げ注文に対する能力も現状の6割から9割になり、当社の納期対応力が大幅に強化されることとなりました。高品質なサービスをご提供することはもちろん、切断加工能力の増強によって様々なニーズ・ウォンツを取り込み、お客さまへの供給体制をさらに万全とするよう努めてまいります。



レーザー切断製品



新型レーザー切断機

■ 会社概要 (2014年3月31日現在)

社 名 株式会社UEX
英 文 商 号 UEX, LTD.
設 立 1955年1月14日
代 表 者 岸本 則之
資 本 金 15億1,215万円
従 業 員 数 280名

本 社 〒140-8630 東京都品川区東品川2-2-24
天王洲セントラルタワー 5F
TEL 03 (5460) 6500
FAX 03 (5460) 6409

東北支店・東北スチールサービスセンター
北陸支店・北陸配送センター
大阪支店・大阪配送センター
九州支店・九州配送センター
東海営業所
名古屋営業所・名古屋配送センター
三島スチールサービスセンター
第一伊勢原スチールサービスセンター
第二伊勢原スチールサービスセンター
東京配送センター

■ 株式の状況 (2014年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 36,000,000株
- 発行済株式の総数 12,000,000株
- 株主数 2,425名
- 大株主

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出資比率*
住友商事株式会社	1,200千株	10.9%
株式会社メタルワン	700千株	6.4%
新日鐵住金ステンレス株式会社	696千株	6.3%
株式会社みずほ銀行	548千株	5.0%
UEX社員持株会	430千株	3.9%
三井物産スチール株式会社	368千株	3.3%
大同特殊鋼株式会社	316千株	2.9%

*出資比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事 業 年 度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定 時 株 主 総 会 毎年6月
定時株主総会基準日 毎年3月31日
期 末 配 当 基 準 日 毎年3月31日
中 間 配 当 基 準 日 毎年9月30日
株 主 名 簿 管 理 人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特 別 口 座 の 口 座 管 理 機 関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂
七丁目10番11号
電話 0120-232-711 (通話料無料)
上 場 証 券 取 引 所 東京証券取引所
ジャスダック市場
公 告 の 方 法 電子公告によります。ただし、事
故その他やむを得ない事由によ
って電子公告による公告をするこ
とができない場合は、日本経済新聞
に掲載します。
(公告掲載アドレス：
<http://www.uex-ltd.co.jp/>)

ご注意

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。